

ああ、結婚！

—婚活日記—

第11回

黒田長宏

<2019年5月24日>

茨城新聞に、生涯未婚率を50歳時未婚率と言いかたを改めるとのことで、私も以前から生涯未婚率なんてひどい言葉であり、50歳以上だって結婚できると思っていたため、世論というのは正しい効果も起こるものだと思った。婚難救助隊宣伝用のYouTube動画でその良いニュースを流した。

<6月10日>

6日に、最多8つやっていたネット婚活を減らしに減らし1つ残したところから、久しぶりに反応がきて、すぐに返信したところ、それから来ていないが、期待するしかない。婚難救助隊の閲覧者数が1700を超えたが、実用的動きはまだない。

<6月16日>

業を煮やして昨日もう一度ネット婚活相手にメールしたが来ない。一体どうしたことだろう。来ないなら、わざわざ私をかなりほめたり長文を書いたりしなければよかったのに。理解不明である。しかし、ネット婚活を再認識させてくれたので応募を続けよう。自分の婚難救助隊サイトは1800

閲覧に向かおうとしている。しかし、進展はない。運営とは難しい。運営は職場の給料でやっているわけだが、独立のどの字も今は見えてこない。

<7月10日>

ジャニーズ事務所の創設者のジャニー喜多川さんが87歳で亡くなったのを知った。婚難救助隊としても、どうして人気の有無が男女とも個々に発生してしまうのかは関心領域である。閲覧者数が2000を突破したが、どうやって婚難救助隊を独立して金銭的に維持していけるかはまるでアイデアが出ていない。なんとか勤務を続けてチャンスをとらえたい。

<8月3日>

今回号の締め切り通知が来た。職場では、既婚者の女性の方々に、職場の女性数人が未婚かなどを調べてくれないかとずうずうしくも、いや、真剣なのだが、お願いしたり、婚難救助隊サイトは目下、2201カウントになったが、目玉企画として、『様々な結婚形態研究』というコーナーを追加した。宣伝のための、YouTubeも100閲覧相当の回が2つ出来た。理由はわからない。某ネット婚活もコンスタントに応募している。今回はかなり短いことになってしまったが、動きが停滞気味だったので仕方がない。停滞気味なのだから、締め切りまでまだ間がだいぶあるが、迅速に送らせていただくつもりである。それによって次回こそは大きな動きが出れば良いのだがと思うからである。それに暑い。婚難救助隊は必要不可欠な軍隊、ではない。結婚難者救助活動なのである。まずは私だろうよとたまに言われる。

<8月4日>

昨夜原稿を送ることも考えていたが、缶酎ハイ2杯飲んだ後だと無理だった。睡魔に襲われた。

集落恒例のお墓掃除に朝7時半から9時まで参加。一昨年まで年老いた母親に任せきりだった

が、昨年の班長の年に参加して、ごみ拾い活動とお墓掃除と年会？には参加すべきだと思い、汗だらだらになったが、心持ち良かった。昨年、集落の M さんに、ネットの個人事業を計画しているところだと告げていたので、今年は婚難救助隊の実物をサイトで見てもらうことができた。有言実行であった。睡魔で億劫だったが、昨夜、様々な結婚形態を語ろうというコンテンツをサイトに増やしたのは上記の通り。

このコンテンツのほうがブレイクの可能性が高いだろうか。そんなことを考えてシャワーを浴びた後に扇風機をつけながら窓を開けると外からもけっこう風のある日で、ぼんやり新聞を眺めながら、もう昼近くになったが、婚難救助隊用の銀行口座のネットバンキング用のカードが届いた。今回締め切りよりだいぶ早期に提出するのは、婚難救助隊サイトとしては型は出来上がったのだが、お金をどう動かせるかというところで停滞していて、たぶん締め切りまでそんなに画期的に動かせるとは思えないので、次回にブレイクを期待したいので、今回は早めに区切りをつけてしまおうという策略である。最初は、なんだこんな長文を書く東男はと思われたかも知れないが、こんなに短い時期もある。とにかく、室内でも熱中症になるよりはエアコンをつけましょう。(この文章が掲載されるころは時すでに遅しか?)